

【資料6】

令和4年度 投資・財政計画ローリング結果

4事業全てにおいてローリングを行っておりますが、
本日は事業規模の大きい水道事業・公共下水道事業に絞ってご説明いたします。

※本ローリングは、令和4年度上半期に取りまとめ、令和3年度決算額（令和4年10月認定）を反映したものです。

○経営目標について

水道事業の経営目標

経営戦略：21ページ

当年度純利益の確保

企業債残高の減少

運営資金（資金残高）の確保

水道事業では、安全で安心な水の安定供給を維持するため、当年度純利益の確保及び企業債残高の減少を図ります。また、運営資金は、将来における建設投資に向けて蓄えておく資金としてだけでなく、大きな災害やあらゆる緊急的な問題に対応するために確保しておくべき資金という側面もあるため、約30億円確保することとしています。

公共下水道事業の経営目標

経営戦略：60ページ

当年度純利益の確保

企業債残高の減少

水洗化率の向上

公共下水道事業では、将来にわたり安定的に事業を継続するため、当年度純利益の確保及び企業債残高の減少を図ります。また、一般会計からの繰入金に頼らないために水洗化率の向上を図り、使用料収入の確保に努めるなど経営基盤の強化に取り組みます。

○経営目標について

・重要業績評価指標（KPI）について

「経営戦略」では、経営基盤の強化や財政マネジメントの向上への取り組みにおける定量的な目標として、重要業績評価指標（KPI）を設定しています。（下記一覧は財務関連の指標のみ掲載）

水道事業のKPI	単位	R3 (実績)	R11 (目標)	算定式
経常収支比率	%	112.7	100以上	経常収益／経常費用
企業債残高対給水収益比率※1	%	517.0	515.5	企業債残高合計／給水収益
給水人口1人当たりの企業債残高※1	円	90,811	90,000	企業債残高合計／給水人口
運営資金（資金残高）※2	円	47億	30億	
公共下水道事業のKPI	単位	R3 (実績)	R11 (目標)	算定式
経常収支比率	%	99.0	100以上	経常収益／経常費用
企業債残高対事業規模比率※1	%	1,078.6	770.0	(企業債残高合計－一般会計負担分)／ (営業収益－受託工事収益－雨水処理負担金)
処理区域内人口1人当たりの企業債残高※1	円	200,205	175,000	企業債残高合計／処理区域内人口

※1 数値が低い方が良い指標です。

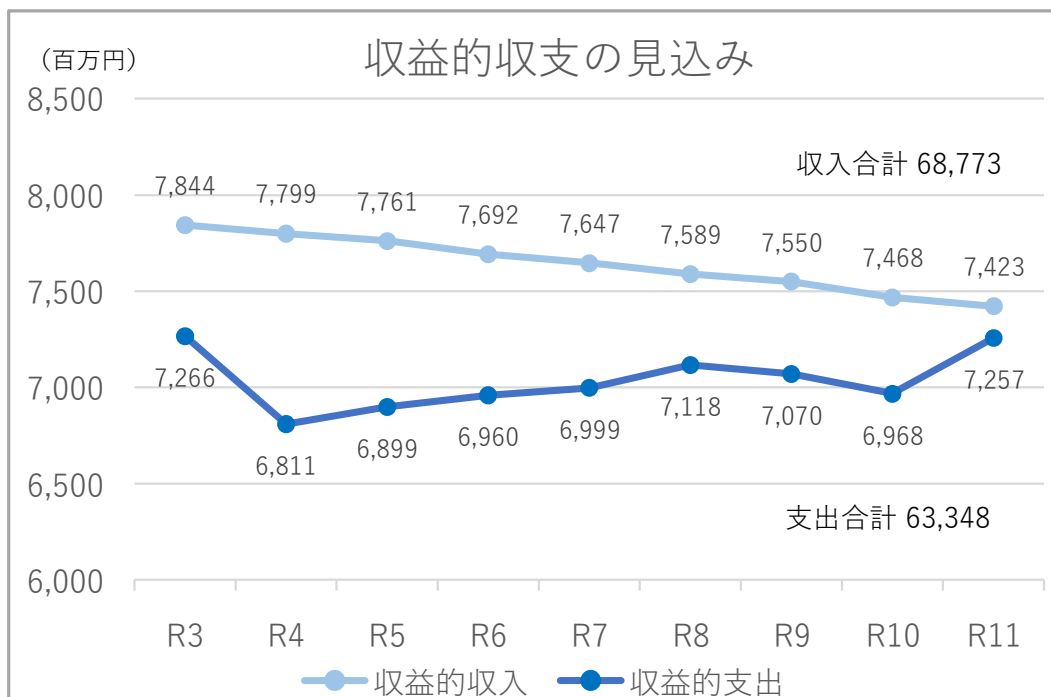
※2 目標額はR11の減価償却費相当額となっています。

○水道事業のローリング結果

・収益的収支の見込み

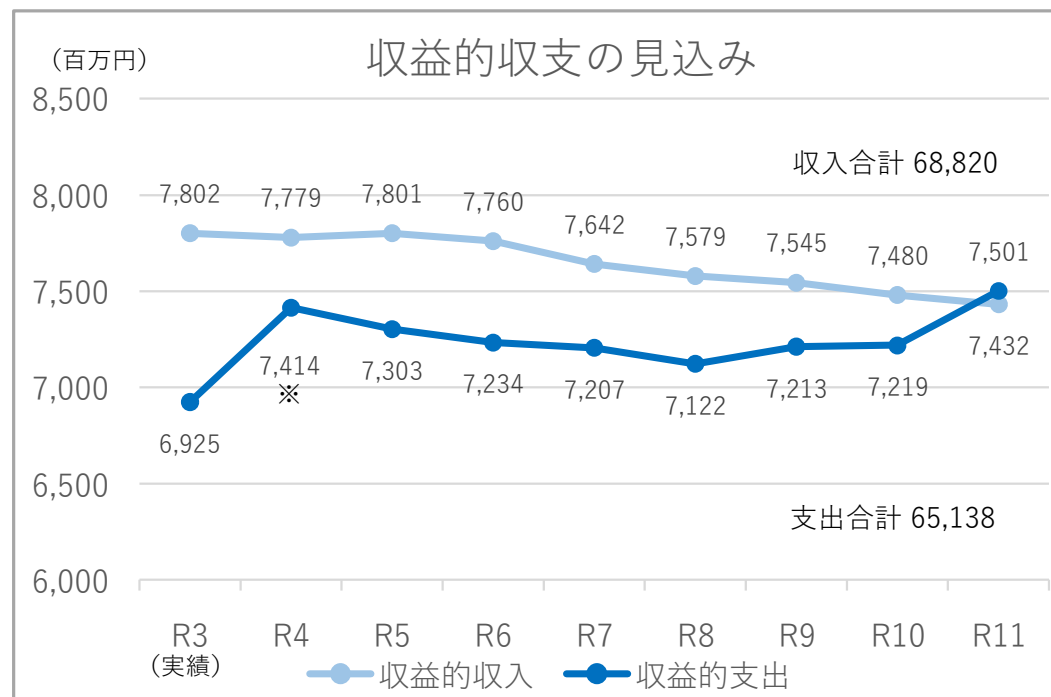
(経営戦略)

(税抜)



(ローリング結果)

(税抜)



KPI

経常収支比率

R11見込み

102.3%

KPI

経常収支比率

R11見込み

99.1%

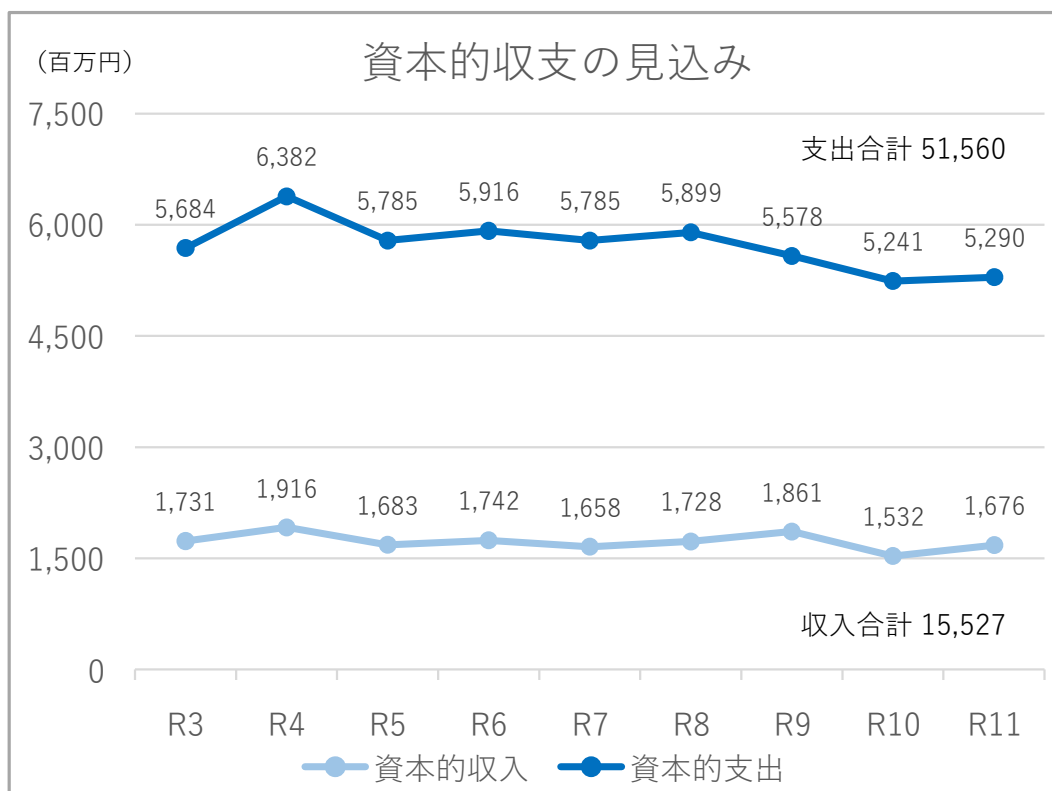
「経営戦略」では収入が減少傾向にあるものの支出を抑えることで安定して純利益を確保できる見込みでしたが、ローリング結果では全体的に支出が増加し、確保できる純利益が「経営戦略」よりも少なくなる見込みです。(※・・・R4の支出増の要因は、下北方浄水場新系完成に伴う減価償却費の増加によるものです。)

○水道事業のローリング結果

・資本的収支の見込み

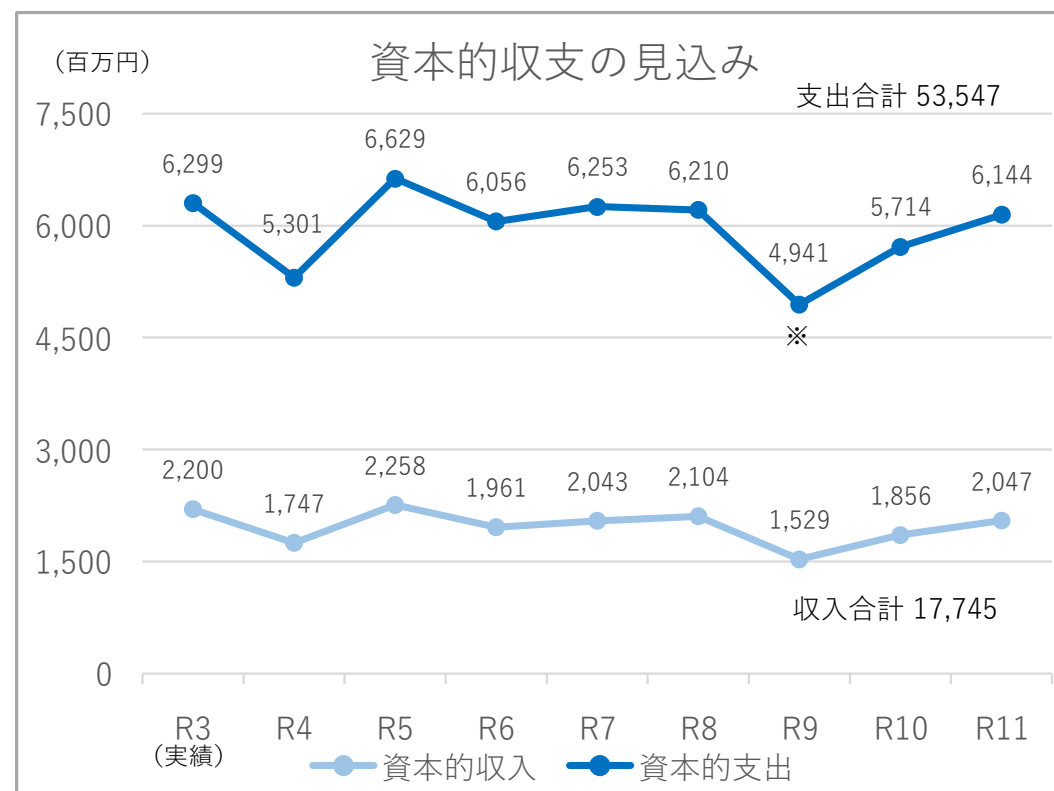
(経営戦略)

(税込)



(ローリング結果)

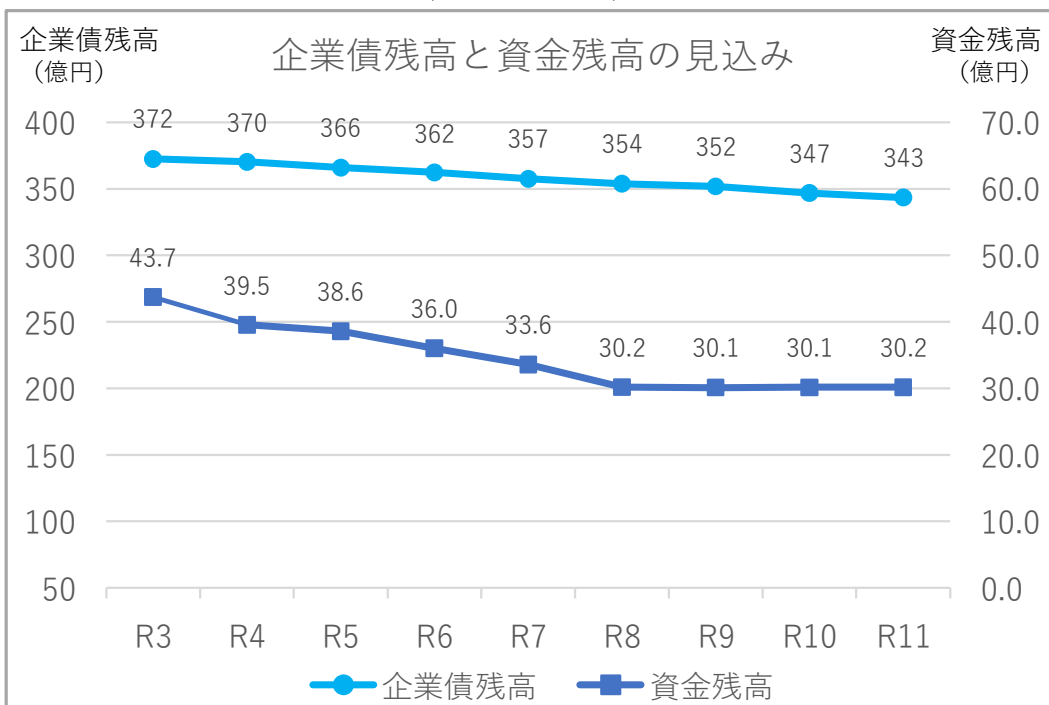
(税込)



「経営戦略」では支出は令和2年度以降おおむね60億円を下回る水準を見込んでいました。ローリング結果では支出は年度毎の増減のばらつきはあるものの、計画期間全体としては大きな増減はありません。(※・・・R9の支出減の要因は、各種工事計画の見直しによるものです。)

○水道事業のローリング結果

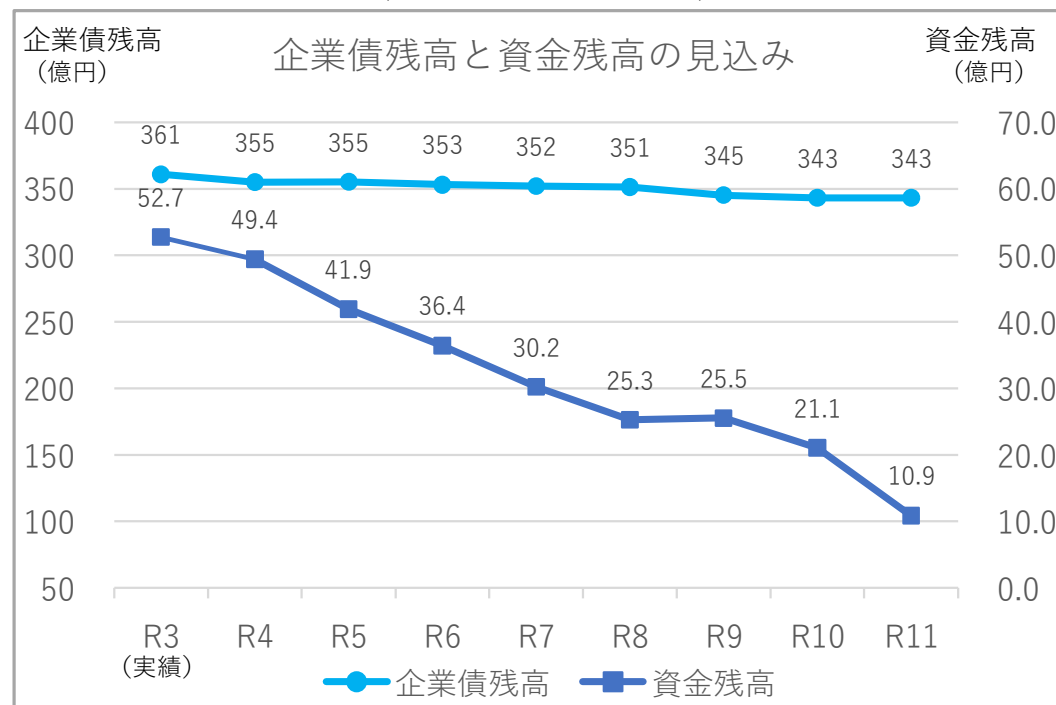
・ 企業債残高と資金残高の見込み (経営戦略)



※ 企業債の充当率は40.7%

KPI	企業債残高対給水収益比率	R11見込み	515.5%
	給水人口1人当たりの企業債残高		88,997円
	運営資金 (資金残高)		30.2億円

(ローリング結果)



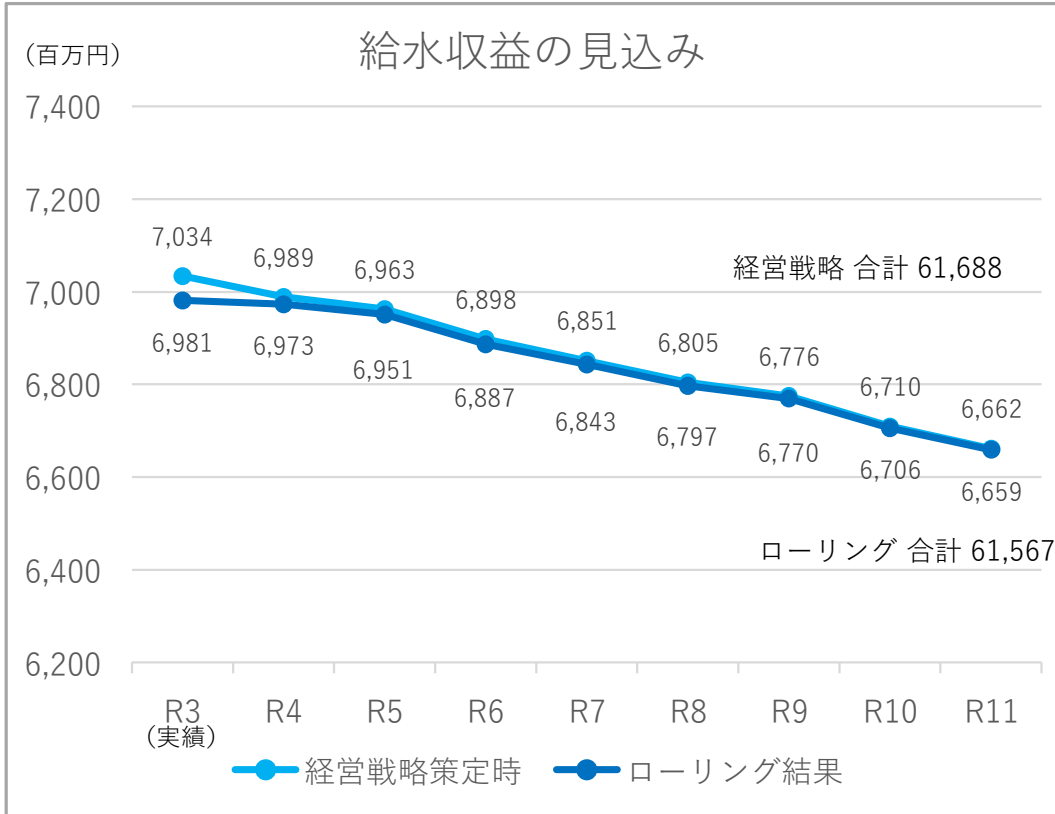
※ 企業債の充当率を42.6%に変更

KPI	企業債残高対給水収益比率	R11見込み	515.3%
	給水人口1人当たりの企業債残高		88,885円
	運営資金 (資金残高)		10.9億円

○水道事業のローリング結果

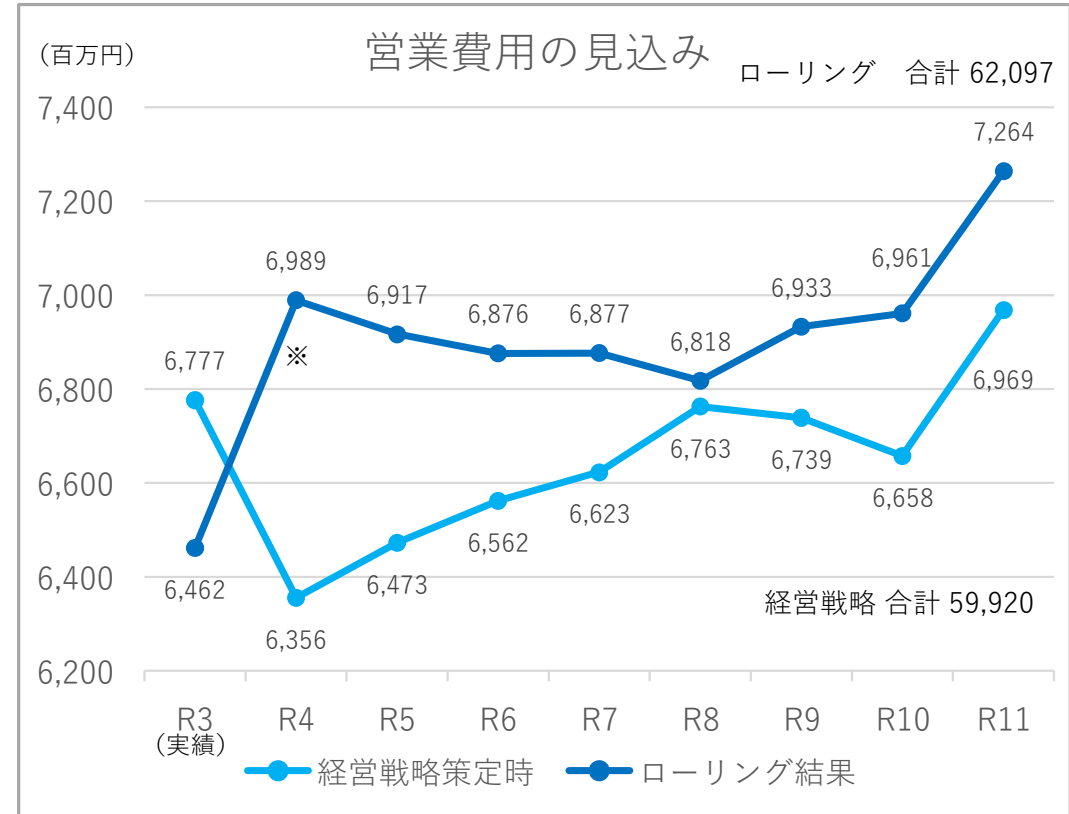
・ 給水収益の見込み

(税抜)



・ 営業費用の見込み

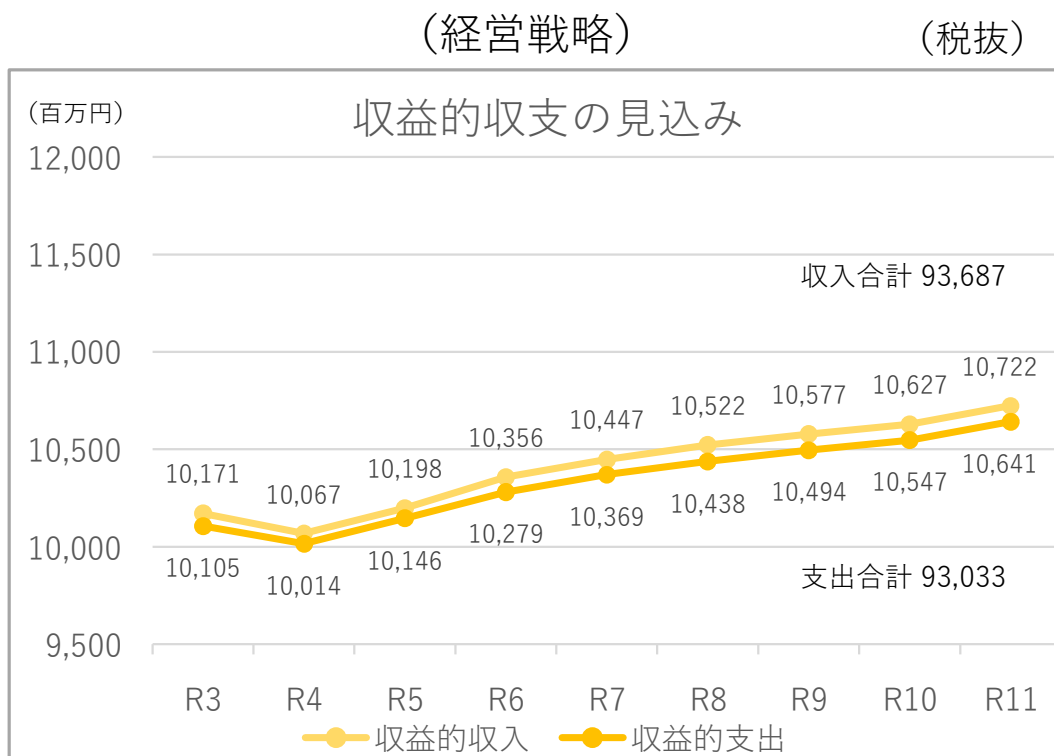
(税抜)



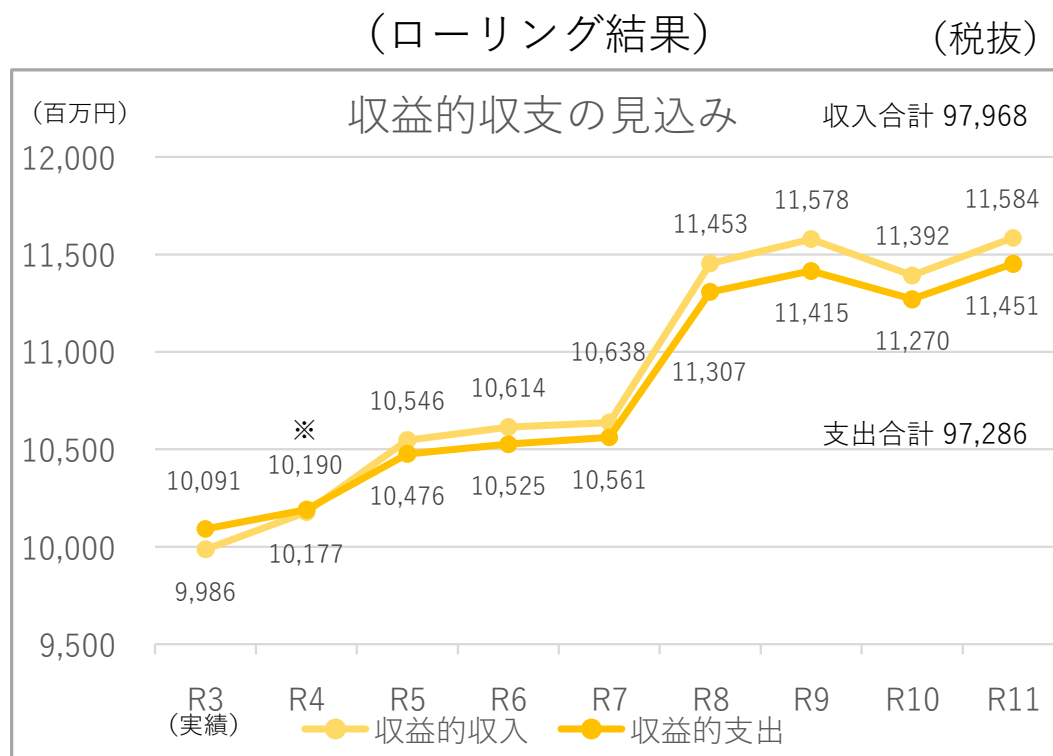
収益的収入の大部分を占める給水収益は「経営戦略」とほぼ同水準で推移すると見込んでいます。また、営業費用は増加傾向にあり、「経営戦略」を上回る水準で推移する見込みです。(※・・・R4の営業費用増の要因は、下北方浄水場新系完成に伴う減価償却費の増加などによるものです。)

○公共下水道事業のローリング結果

・収益的収支の見込み



KPI	経常収支比率	R11見込み	100.8%
-----	--------	--------	--------

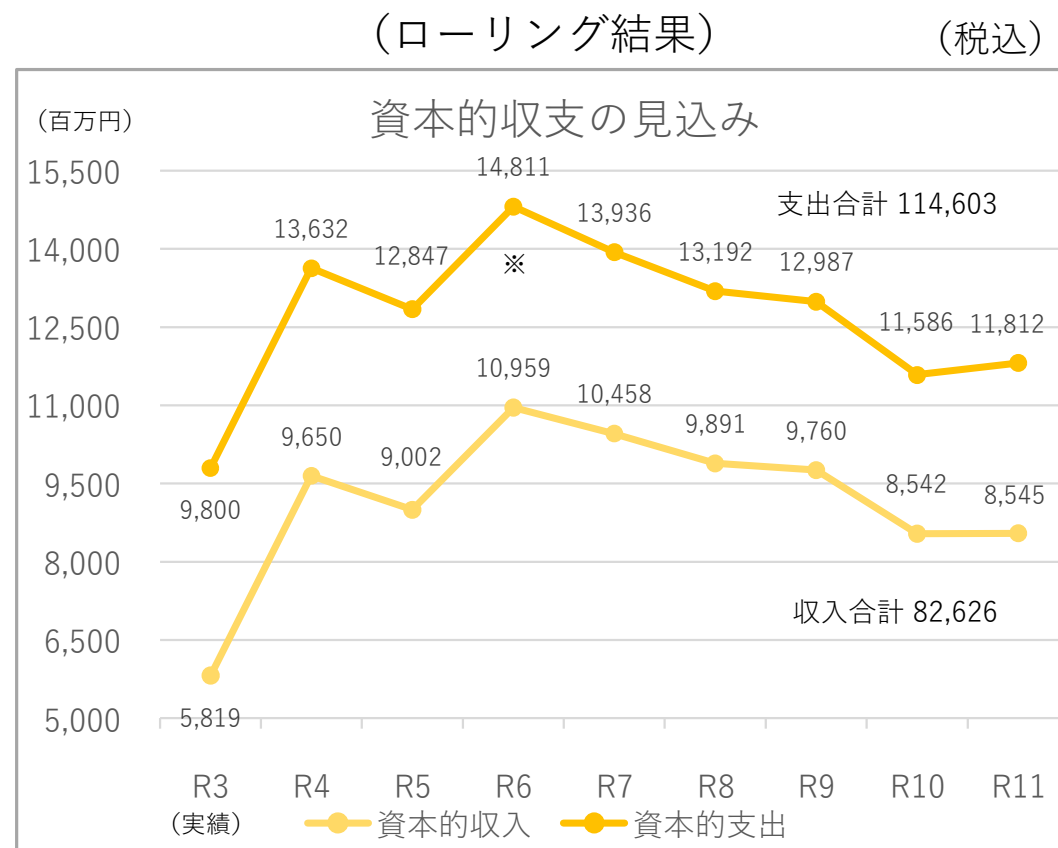
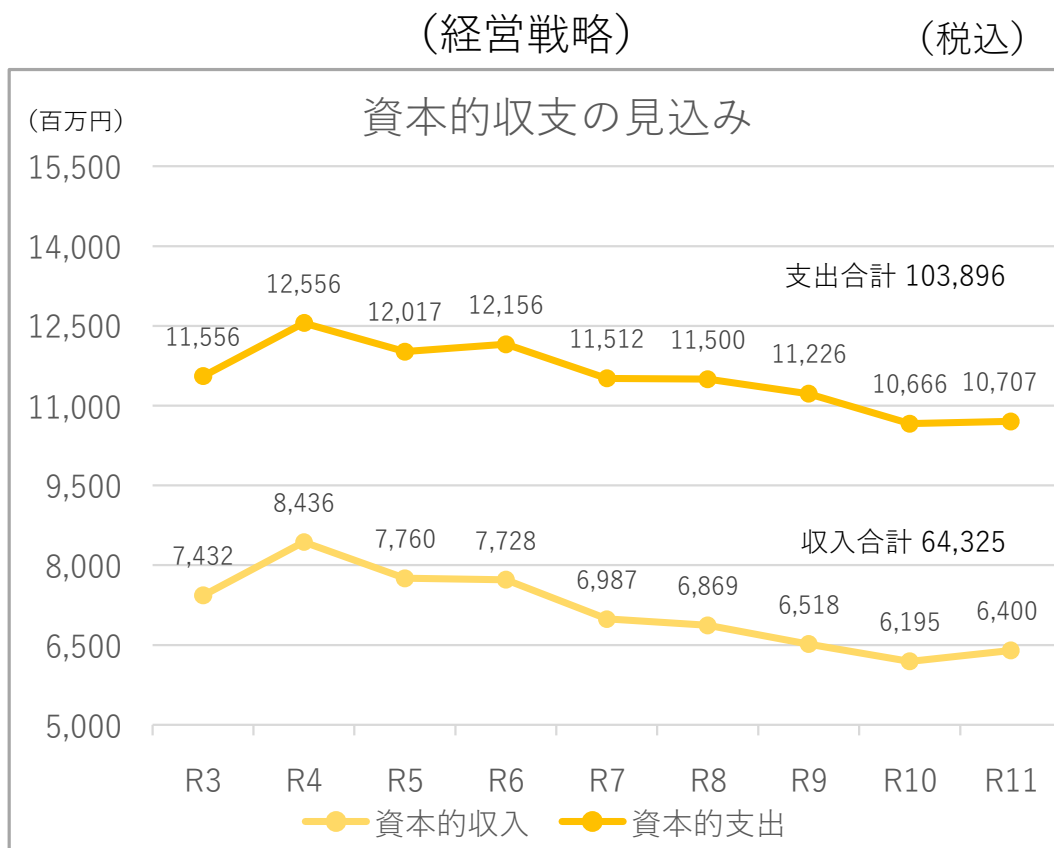


KPI	経常収支比率	R11見込み	101.2%
-----	--------	--------	--------

ローリング結果において、令和4年度を除き支出が収入を下回る水準で推移していますが、これは一般会計からの繰入金により収支不足分を賄っているためです。支出部分に着目すると、計画期間後期では「経営戦略」より大きく増加するローリング結果となりました。(※・・・R4の赤字の要因は、令和3年度事業の繰越によるものです。)

○公共下水道事業のローリング結果

・資本的収支の見込み



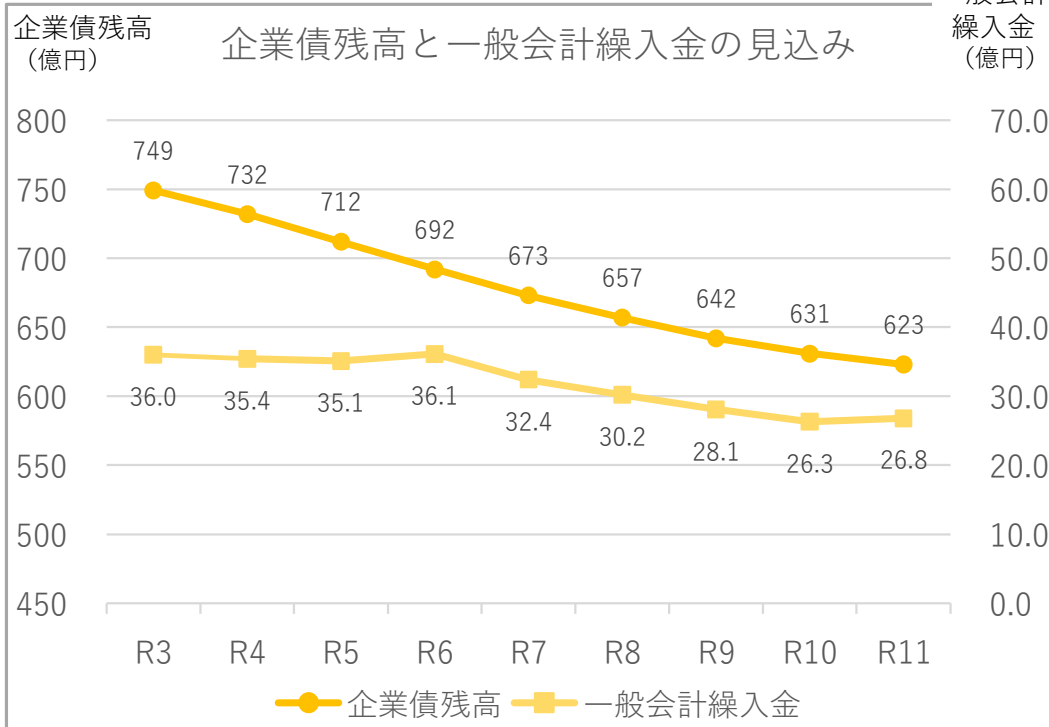
「経営戦略」では計画期間全体を通して支出は100億円～125億円を推移する見込みでしたが、ローリング結果では事業費の増加により、特に令和6年度～9年度の支出が大幅に増加する見込みとなっています。(※・・・R6の支出増の要因は、大淀処理場焼却炉代替施設整備事業費の見直しや、浸水対策事業の対象箇所の変更によるものです。)

○公共下水道事業のローリング結果

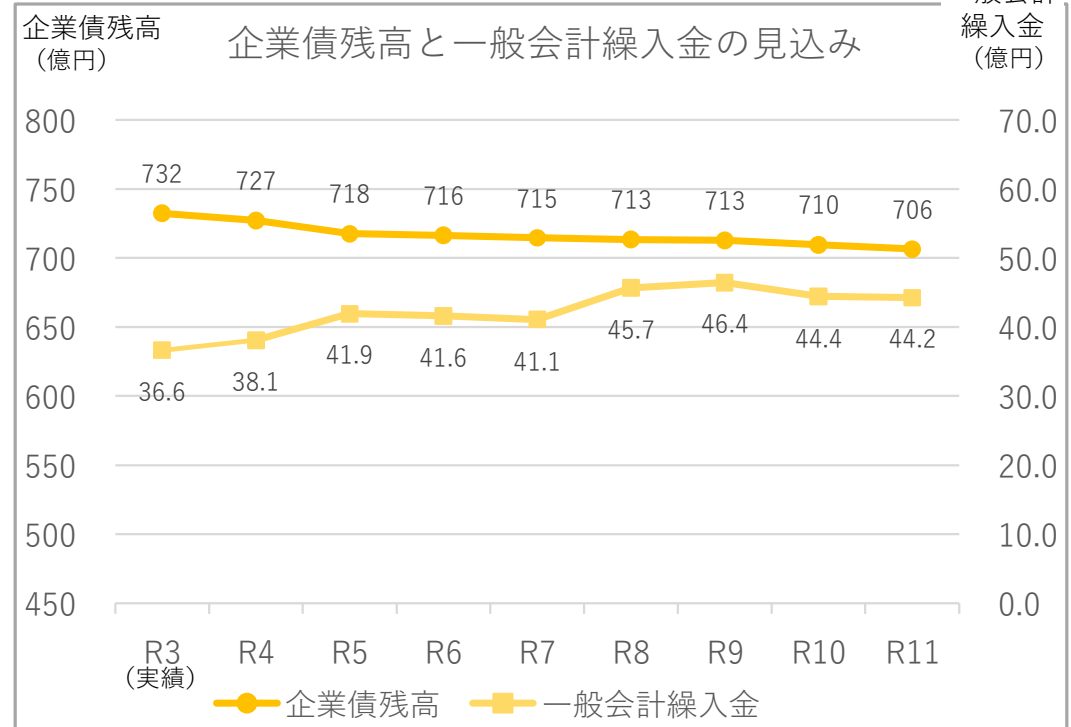
・企業債残高と一般会計繰入金の見込み

※一般会計繰入金の数値は計画上の数値であり、繰入が保証されるものではありません。

(経営戦略)



(ローリング結果)



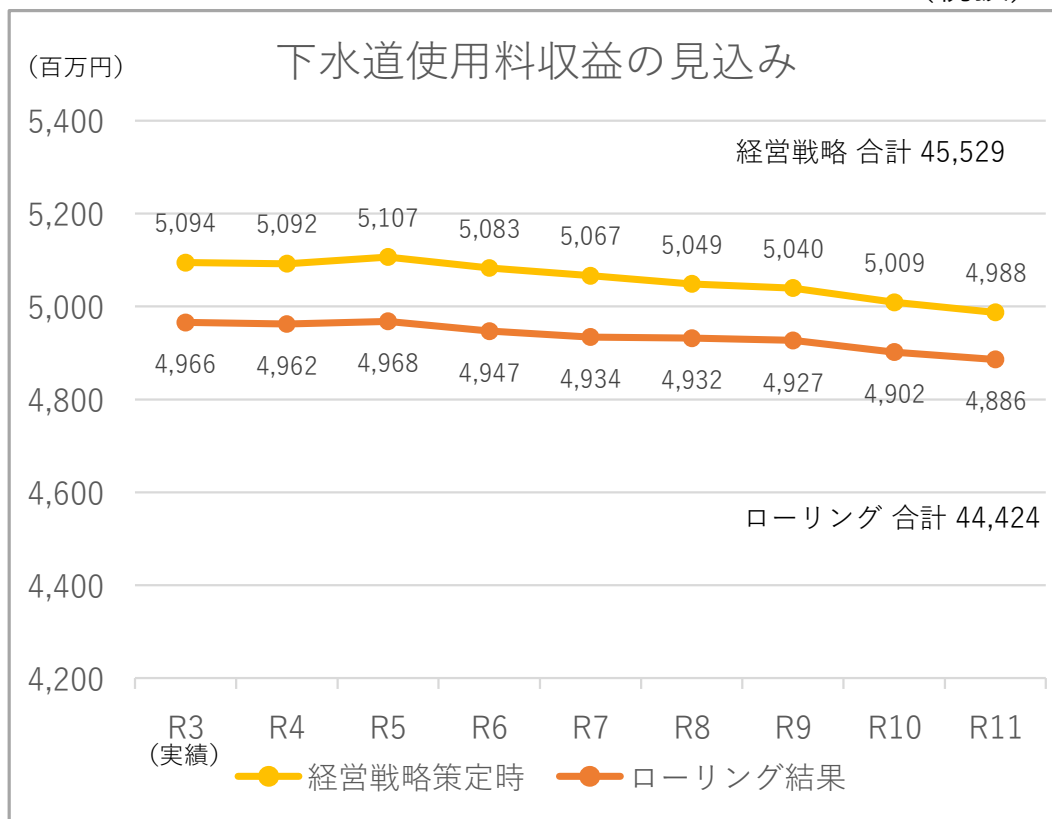
KPI	企業債残高対事業規模比率		762.4%
	処理区域内人口1人当たりの企業債残高	R11見込み	174,326円

KPI	企業債残高対事業規模比率		830.0%
	処理区域内人口1人当たりの企業債残高	R11見込み	195,822円

○公共下水道事業のローリング結果

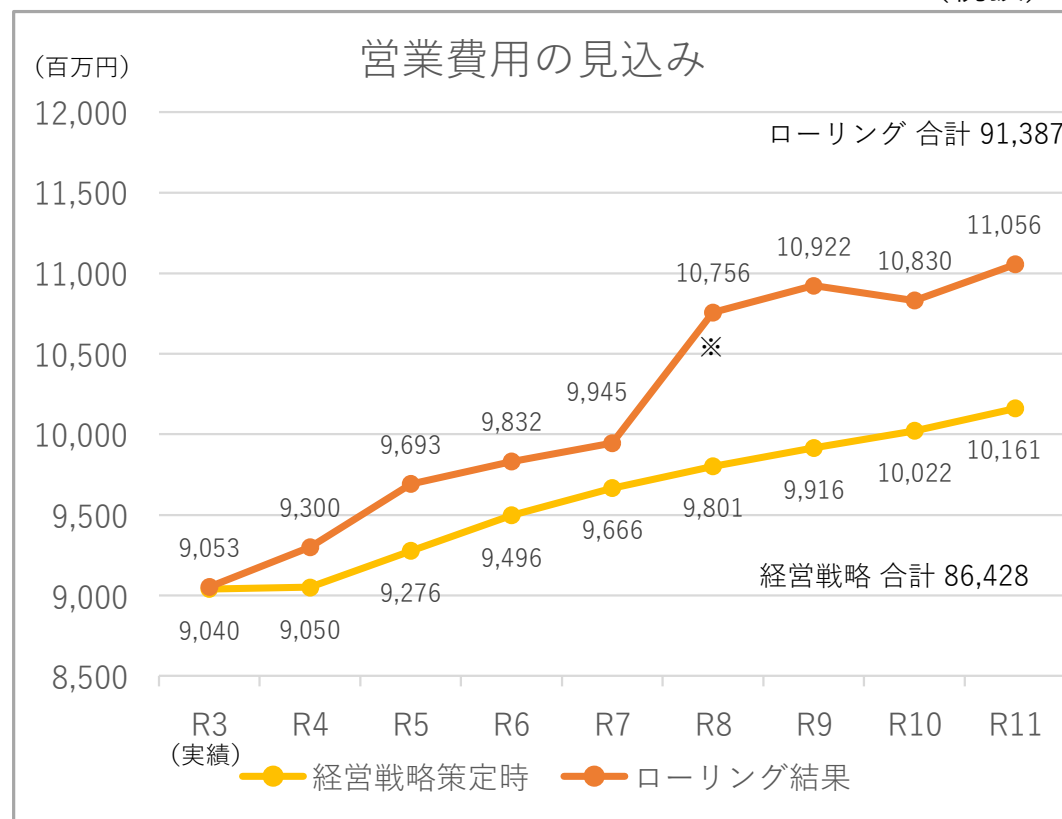
・下水道使用料収益の見込み

(税抜)



・営業費用の見込み

(税抜)



下水道使用料収益は実績が「経営戦略」を下回っており、今後も下回ると予測しています。また、営業費用は業務委託費の増加などにより「経営戦略」を大きく上回る水準を推移する見込みです。下水道使用料収益の減少と営業費用の増加により、前ページのとおり一般会計繰入金が増加する見込みとなっています。(※・・・R8以降の営業費用増の要因は、既存の処理場等及び更新後の大淀処理場焼却炉代替施設等の維持管理業務委託費の増、新設する大淀処理場し尿等投入施設維持管理業務委託の追加及び資産減耗費の増によるものです。)

ローリング結果のまとめ

重要業績評価指標（KPI）の達成見込み

ローリング結果により試算した各事業のKPIの達成見込みは、次のような結果となりました。

（下記一覧は財務関連の指標のみ掲載）

水道事業のKPI	単位	R11 (目標)	R11 (見込み)	達成 見込み	算定式
経常収支比率	%	100以上	99.1	▲	経常収益／経常費用
企業債残高対給水収益比率 ※1	%	515.5	515.3	○	企業債残高合計／給水収益
給水人口1人当たりの企業債残高 ※1	円	90,000	88,885	○	企業債残高合計／給水人口
運営資金（資金残高） ※2	円	30億	10.8億	▲	
公共下水道事業のKPI	単位	R11 (目標)	R11 (見込み)	達成 見込み	算定式
経常収支比率	%	100以上	101.2	○	経常収益／経常費用
企業債残高対事業規模比率 ※1	%	770.0	830.0	▲	(企業債残高合計－一般会計負担分)／ (営業収益－受託工事収益－雨水処理負担金)
処理区域内人口1人当たりの企業債残高 ※1	円	175,000	195,822	▲	企業債残高合計／処理区域内人口

※1 数値が低い方が良い指標です。

※2 目標額はR11の減価償却費相当額となっています。

○ローリング結果のまとめ

水道事業

・給水収益が減少傾向にある一方で、営業費用は増加傾向にあり、純利益が確保できなくなることで、資金残高が減少することが見込まれます。

・企業債残高は「経営戦略」での見込みと同程度まで減少し、企業債に関するKPIは2つとも目標を達成できる見込みです。

公共下水道事業

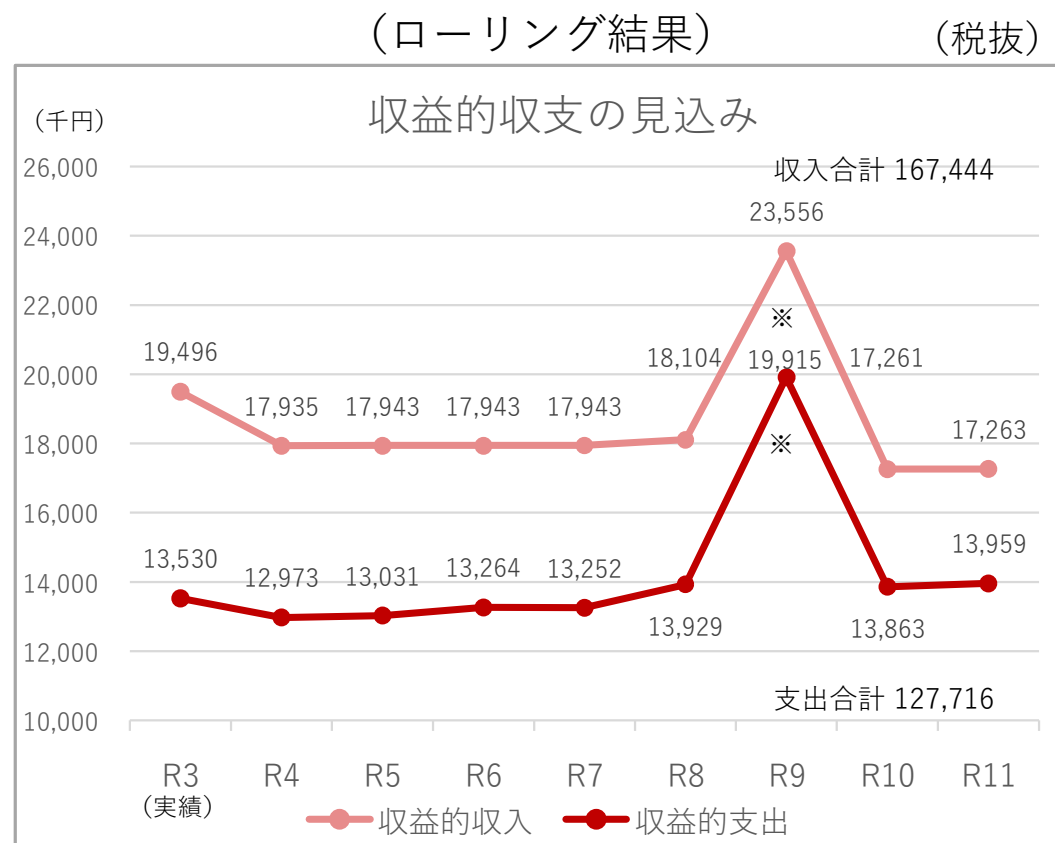
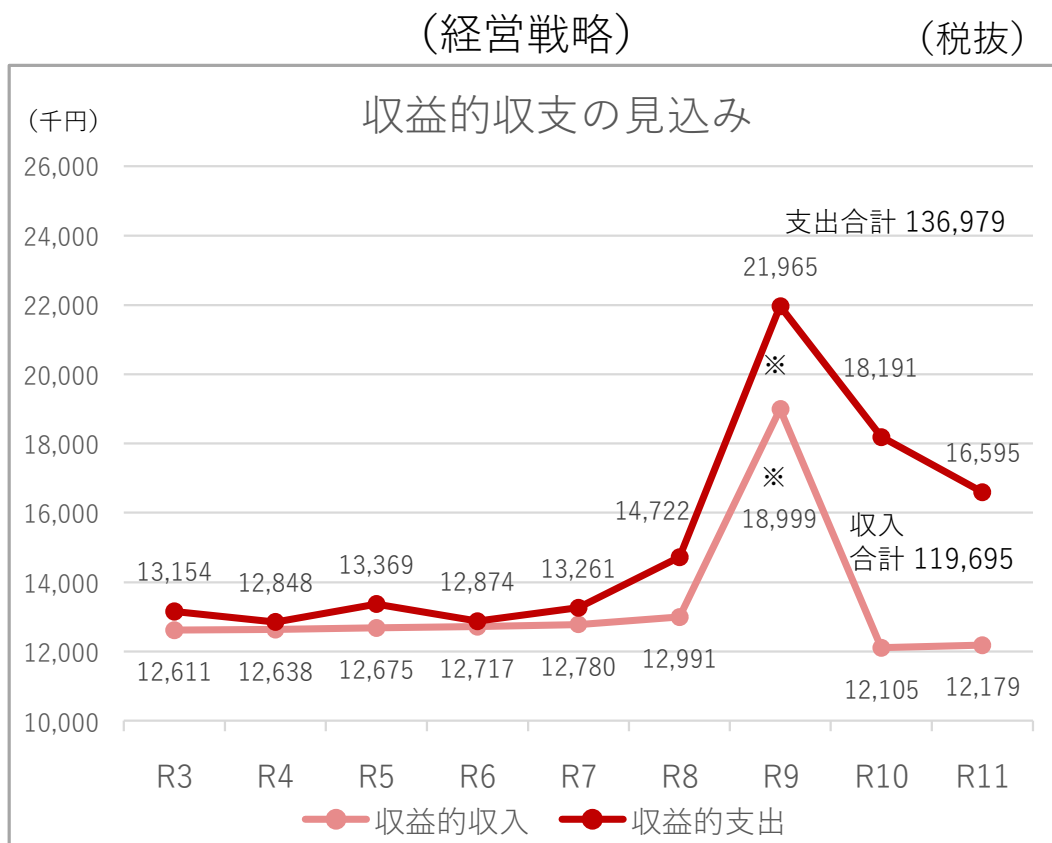
・下水道使用料収益が減少傾向にある一方で、営業費用は増加傾向にあり、一般会計繰入金は「経営戦略」よりも増加する見込みです。

・企業債残高は減少傾向にありますが、「経営戦略」よりも緩やかな減少となっており、企業債に関するKPIは2つとも目標達成が難しい状況です。

(補足) 工業用水道事業及び農業集落排水事業のローリング結果は裏面以降に記載しています。

○工業用水道事業のローリング結果

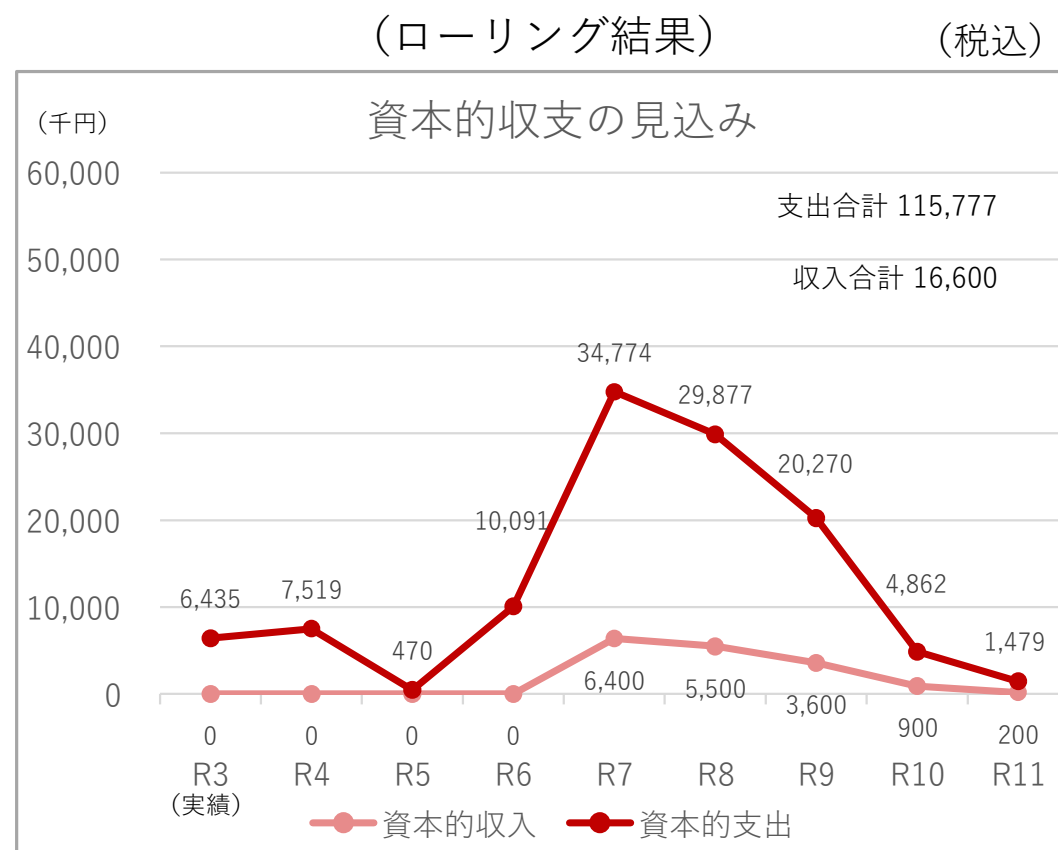
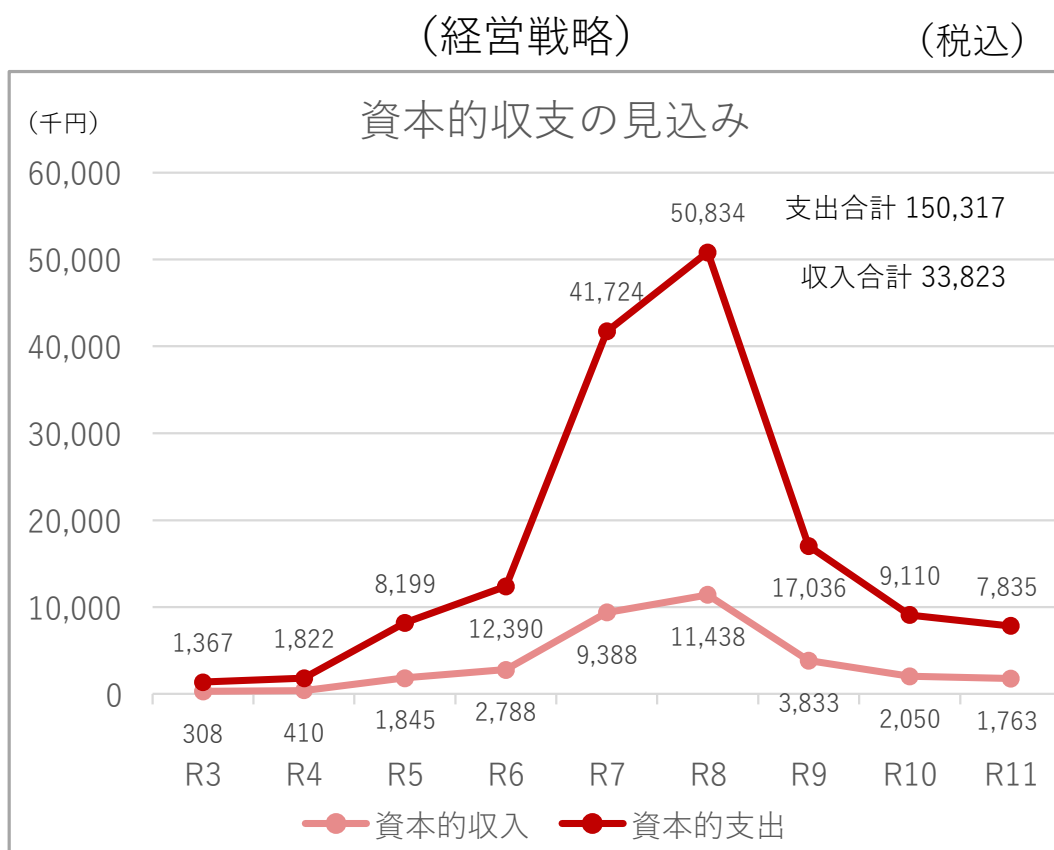
・収益的収支の見込み



「経営戦略」では支出が収入を上回る見込みでしたが、令和3年4月に工業用水道料金の改定を行ったことにより、ローリング結果が示すとおり収入が支出を上回り安定した経営を行える見込みです。(※・・・R9の支出増の要因は、R6～R9の配水管布設替工事に伴う既設配水管に関する固定資産除却費の増加であり、収入増の要因も同じく既設配水管の除却に伴う長期前受金戻入の増加によるものです。)

○工業用水道事業のローリング結果

・資本的収支の見込み



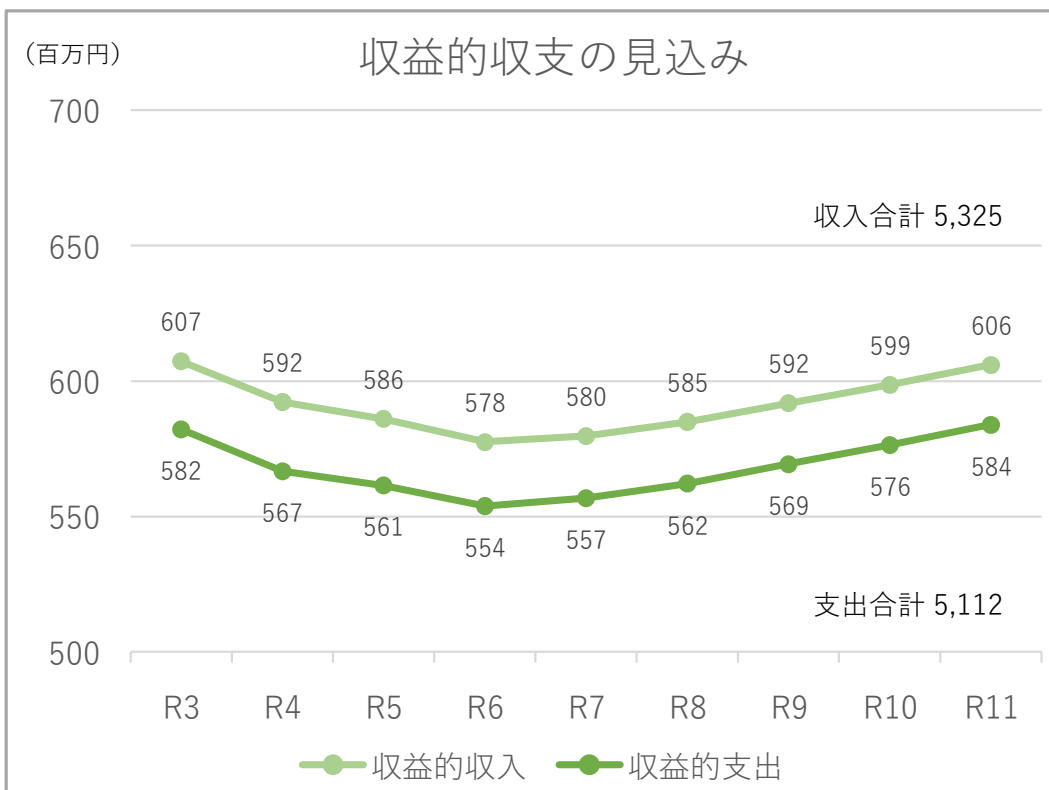
アセットマネジメントの手法を活用した施設の長寿命化や更新費用の平準化により、「経営戦略策」より支出を2割程度抑えられる見込みです。なお、令和6年度から令和9年度には、令和10年度に法定耐用年数を迎える送水管の布設替工事を予定しています。

○農業集落排水事業のローリング結果

・収益的収支の見込み

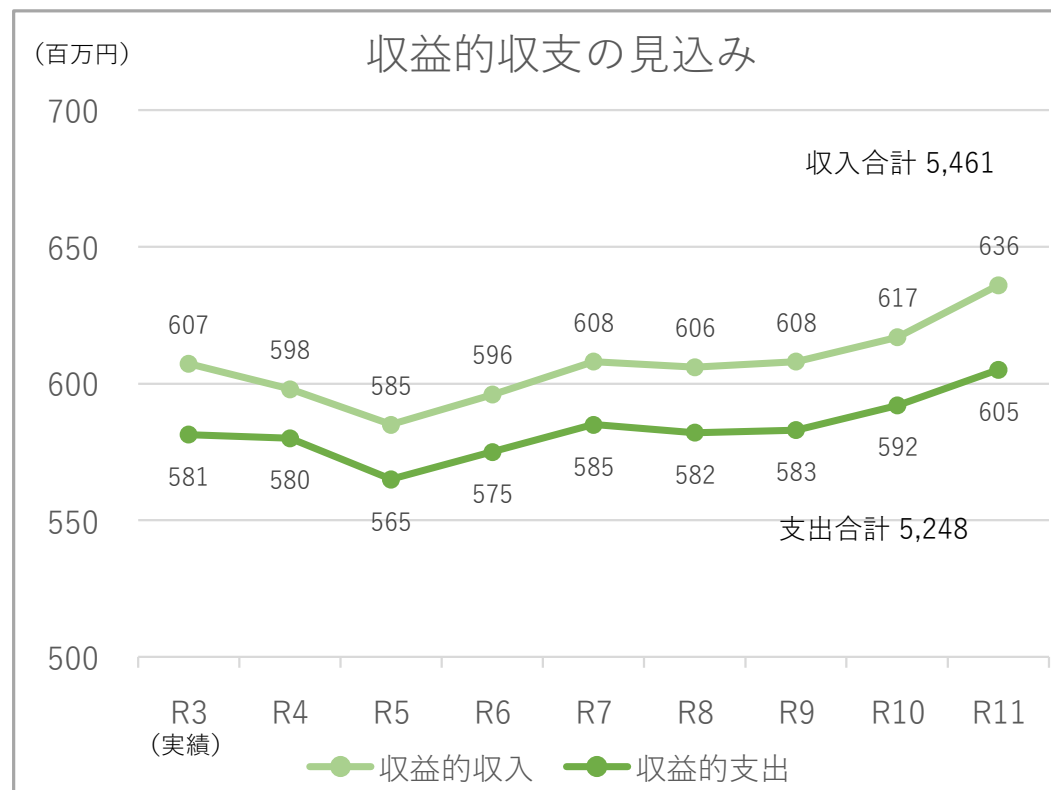
(経営戦略)

(税抜)



(ローリング結果)

(税抜)

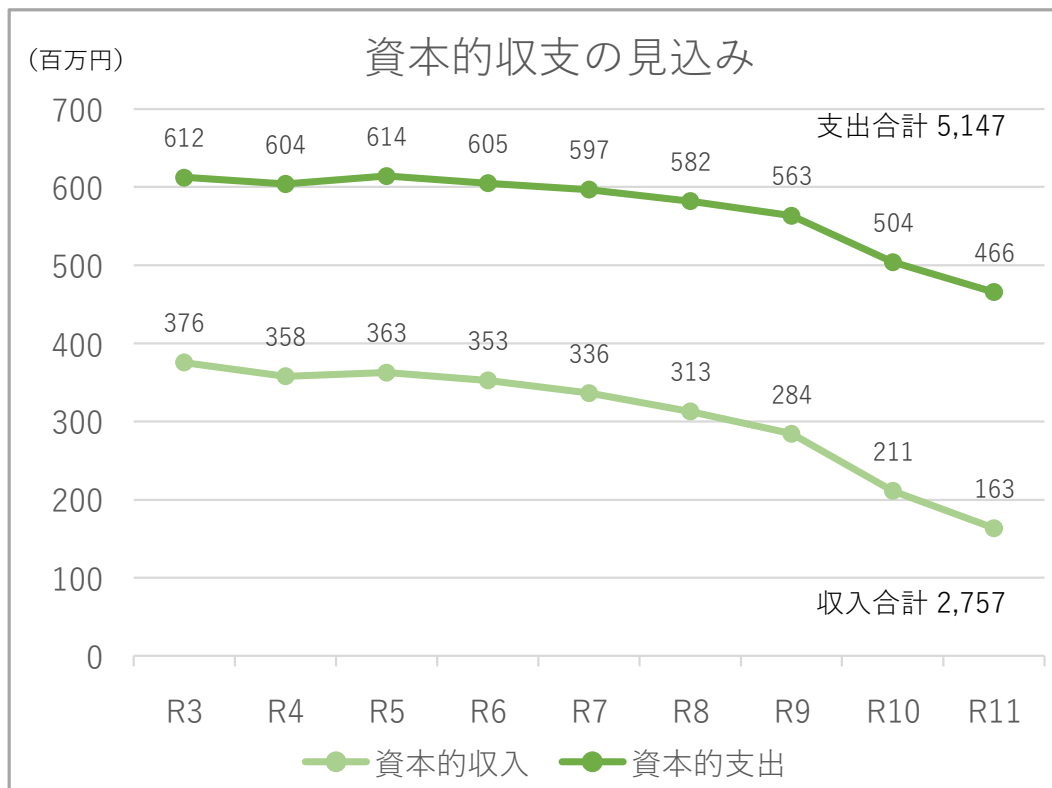


「経営戦略」、ローリング結果ともに支出が収入を下回る水準で推移しており、年度ごとの増減のばらつきはあるものの、計画期間全体としては大きな増減はありません。

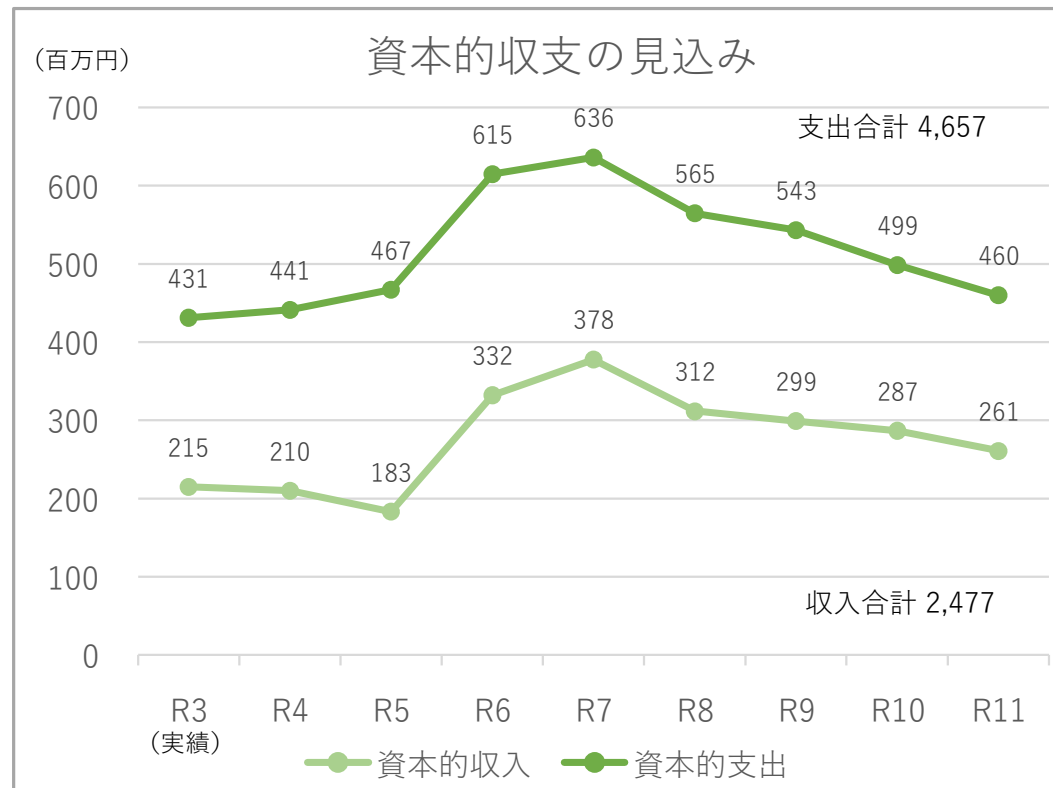
○農業集落排水事業のローリング結果

・資本的収支の見込み

(経営戦略) (税込)



(ローリング結果) (税込)



令和3年度から行う予定であった「農業集落排水施設最適整備構想・再編計画」に係る事業を、ローリング結果では令和6年度から行うとして修正を行ったため、令和6年度から支出が増加しています。

○ローリング結果のまとめ

工業用水道事業

- ・令和3年4月に料金改定を行ったことにより、今後も安定した経営が見込まれます。
- ・今後もアセットマネジメントの手法を活用した施設の適正な維持管理・長寿命化を図りながら、計画的な改築・更新を行います。

農業集落排水事業

- ・「経営戦略」での見込みから大きな増減はありませんが、「農業集落排水施設最適整備構想・再編計画」に係る事業の開始時期の修正を反映しました。
- ・今後は上記の計画に基づいた効率的な施設運営（施設の統合など）や計画的な改築を行います。